

社会学部報

◇昭和54年1月12日 学部研究会 発表者 スタンフォード大学 別府春海教授 「日本人の集団志向性に関するモデルとそれに関する二、三の問題」

◇レイノー教授を囲む懇談会

日本学術振興会の招へい教授として9月から約2ヶ月日本に滞在のレイノー J. D. Reynowd 教授〔パリ国立工芸大学教授・同大学労使関係研究所長・国際労使関係研究会会長(1976-79)〕は10月12日午後本学で「ヨーロッパ共同体における労使関係の問題点」と題して講演を行ったが、講演後社会学部会議室で同教授を囲む懇談会に出席、午後3.00~5.00の二時間にわたって、社会学部教授や大学院生および関係者たちと「フランスの最近の労働事情」について懇談し、出席者からの活発な質問に対して率直に意見をのべた。

◇メーステル教授来訪

フランス政府派遣のメーステル教授(トゥレーヌ教授が所長をしている社会運動研究所の研究員)は12月上旬来日、12月22日午後社会学部会議室で「労働者の自主管理」の問題について講演したが、そのあと院生など10人ほど出席し質問対議が行われた。

◇海外出張

宮田満雄教授 昭和54年2月16日から2月19日まで、世界 YMCA 同盟アジア地域委員会出席のため香港へ。

会員の新著

金田博通教授 「宝塚市史 第5巻」 昭和53年12月 宝塚市

学会消息

◇日本新聞学会

日本新聞学会1978年度秋季研究発表会は、11月11日東洋大学において開催された。シンポジウムは「コミュニケーション政策の現状と問題点」をめぐって討議が行われた。個人研究発表では本学部から大学院生元浜涼一郎「コミュニケーション論の方法論的検討」の発表があった。津金沢教授、加藤助教授も出席した。次回79年度春季大会は来たる6月9日(土)、10日(日)立命館大にて開催の予定である。

学会報告

日本時事英語学会

関西支部研究集会在が8月26日鈴木ビルで開催され、西尾教授が司会を行った。10月7日8日に亜細亜大学で開催された学会大会においては、西尾教授が閉会の辞を述べた。なお11月2日の学会理事会で西尾教授は常任理事に再選された。

編集後記

今回の第38号は去る10月20日、本学の招聘で訪日され、約2ヶ月にわたって社会学部で特別講義をして下さったほか、何回か講演をして下さったパーソンズ Talcott Parsons 教授の関学訪問を記念して、「パーソンズ教授記念号」とした。掲載されたのは10月25日社会学部で行われた講演と11月17、18日千刈のセミナー・ハウスで行われた講演であるが、世界的に令名高い教授の論文で本紀要に一段と光彩をますことができたことは非常に好運であり、また光栄でもある。小関の論文がこの号に掲載されたのは偶然の一致である。

執筆 者 紹 介 (掲載順)

タルコット・パーソンズ	ハーバード大学名誉教授	加 藤 春 恵 子	社会学部助教授
中 野 秀 一 郎	社会学部教授	嶋 田 津 矢 子	社会学部教授
小 関 藤 一 郎	社会学部教授	高 田 真 治	社会学部助教授
萬 成 博	社会学部教授	竹 安 栄 子	社会学部大学院 博士課程後期課程 3年
中 山 慶 一 郎	社会学部教授	春 日 雅 司	社会学部大学院 博士課程後期課程 2年
海 野 道 郎	社会学部助教授		
鏡 豊	東京工業大学大学院 社会工学専攻(博士課程)		

社 会 学 部 研 究 会 々 員

会 長	倉 田 和 四 生			
評 議 員	小 関 藤 一 郎	定 平 元 四 良	本 出 祐 之	
	中 山 慶 一 郎	津 金 沢 聡 広	春 名 純 人	
会 計 監 査	牧 正 英	張 光 夫		
書 記	山 口 恭 平			
普 通 会 員	杉 原 方	余 田 博 通	田 中 國 夫	
	西 尾 朗	嶋 田 津 矢 子	萬 成 博	
	領 家 穰	杉 山 貞 夫	半 田 一 吉	
	武 田 建	遠 藤 惣 一	佐々木 薫	
	森 川 甫	中 野 秀 一 郎	J・ジ ョ イ ス	
	宮 田 満 雄	船 本 弘 毅	紺 田 千 登 史	
	村 川 満	西 山 美 瑳 子	村 山 冴 子	
	真 鍋 一 史	山 路 勝 彦	海 野 道 郎	
	山 本 剛 郎	加 藤 春 恵 子	高 田 真 治	

関西学院大学社会学部研究会々則

第1条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第2条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。

第3条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行なう。

1. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
2. 研究会および講演会の開催。
3. 研究叢書の刊行。
4. その他本会の必要と認める事業。

第4条 本会の会員は次の3種とする。

1. 名誉会員本会の特に推薦するもの。
2. 普通会員本学社会学部専任の教授、助教授、講師、および助手。
3. 賛助会員以上の外申込のあったもの。

第5条 普通会員は年額14,400円、賛助会員は年額10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第6条 本会員および本会社会学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は年額1,200円とする。

第7条 本会に次の役員をおく。

1. 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
2. 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
3. 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
4. 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
5. 書記は、社会学部事務長に委嘱する。

第8条 本会役員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第9条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算決算は総会の承認を得なければならない。

第10条 総会は毎年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第11条 本会は事務所を本学社会学部におく。

第12条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1979年2月20日 印刷

1979年2月25日 発行

編集発行人 倉田和四生

印刷所 ともゑ美術工芸社
〒663 西宮市枝川町5-18-302
電話(0798)47-8300

発行所 関西学院大学社会学部研究会
西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)(51)0912(代表)
(51)3512(直通)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 38

February. 1979

Special Number in Honor of Professor Talcott Parsons

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
